

第三者評価結果シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 福祉総合評価機構

②評価調査者研修修了番号

SK15233
SK16021

③施設名等

名称：	希望の灯学園
施設長氏名：	岩村ミサエ
定員：	35名
所在地(都道府県)：	長崎県
所在地(市町村以下)：	南松浦郡上五島町鯛ノ浦303-6
T E L：	0959-42-0204
U R L：	
【施設の概要】	
開設年月日	1880年8月10日
経営法人・設置主体(法人名等)：	社会福祉法人 ブレル会
職員数 常勤職員：	21名
職員数 非常勤職員：	8名
専門職員の名称(ア)	保育士
上記専門職員の人数：	7名
専門職員の名称(イ)	栄養士
上記専門職員の人数：	1名
専門職員の名称(ウ)	
上記専門職員の人数：	名
専門職員の名称(エ)	
上記専門職員の人数：	名
専門職員の名称(オ)	
上記専門職員の人数：	名
専門職員の名称(カ)	
上記専門職員の人数：	名
施設設備の概要(ア)居室数：	
施設設備の概要(イ)設備等：	
施設設備の概要(ウ)：	
施設設備の概要(エ)：	

④理念・基本方針

<p>理念：わたしの兄弟なる最も小さい人々にしてくれたことは、わたしにしてくれたことである。（マタイ福音書25章40節）</p> <p>キリストの言葉に基づいて、小さな命への奉仕を始めました。私たちは、その精神を今も引き継ぎ、キリストの愛の心を、特に家庭に恵まれない子供たちに伝えるよう努めます。また、経営母体であるお告げのマリア修道会の保護者であり、模範である聖母マリアに倣い、細やかな心を持って一人一人と向き合い心身の成長を助けます。</p> <p>基本方針：本園は、児童福祉法に基づき、保護者のない児童、その他環境上養護を必要とする児童をカトリックの愛に基づいて、奉仕と感謝の念を培い、自主性、独立性、創造性、批判性を伸長し、責任感と積極的行動があり未来をつくる担い手として、治療、養育、教育することを運営の基本方針とする。</p>

⑤施設の特徴的な取組

<ul style="list-style-type: none"> ・ 緊急一時保護事業 ・ デイケア（通所養護）事業 ・ ショートステイ（短期入所）事業 ・ 父子家庭等児童夜間養護（トワイライトステイ）

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間(ア)契約日(開始日)	2017/5/30
評価実施期間(イ)評価結果確定日	2018/3/26
受審回数	3回
前回の受審時期	平成26年度

⑦総評

◇特に評価の高い点

1. 個別支援計画の充実

前回は改善が求められる点に挙げられていた自立支援計画は、園長が責任者となり作成・見直しが行われている。作成と見直しの際は処遇職員に加え調理員も参加している。見直した項目は赤で記入し、「その子に今最も必要な支援」を明確化しており、子どもの意向を反映して改善を行っている。

支援が困難なケースが発生した場合は、臨床心理士との面談や児童相談所への相談等を行い、措置変更や特別支援学級への移行が検討されている。過去には措置変更が検討された際に、臨床心理士の適切な対応により措置変更することなく当園での養育を継続した例があり、職員間や外部との連携、信頼関係の構築が充実していることがわかる。

さらに、年に3回の支援方法についての研修が、いずれも就業時間内に行うなど、子どもだけでなく職員への配慮も十分に行っていることは優れている点である。

2. ユニット化の有効利用

当園では本体施設以外に「ナザレト」と「カナの家」という2つのグループホームを有している。「ナザレト」は戸建て住宅で、衣食住を中心とした自立訓練が出来る施設との位置づけとなっている。「カナの家」はアパートで、分園型として開設されている。

子どもの居室を確保し、上級生が下級生の世話をよく行い、とても明るい表情で生活している様子を見ることが出来る。また、管理宿直者や夜警の職員を採用して、夜間の見守りが充実している。

これらは国の施策が今後小規模化・ユニット化への移行を目指す中、それぞれ平成6年、平成25年とかなり以前から目的を定めて設置しており、子どもの自立に必要な環境を整備していることは園の特長である。

3. 卒園後の支援

通常は18歳で卒園を迎えるため、高校生の期間にアルバイトを奨励している。事前に勤労経験を積むことで、卒園後の社会人生活にスムーズに移行できるよう配慮している。アルバイト期間中に高評価を受けて、職人の道に進んだ例もある。

また、職員は出張した際、卒園生と連絡を取り、可能な限り会って状況確認を行っている。地元就職した卒園生については、職員が合間を見て住居を訪問し、部屋の片づけの手伝いを行っている。

園の行事の際には多くの卒園生が参加しており、卒園後も園との良好な関係を維持していることが見てとれ、園の特筆すべき点と言える。

◇改善を求められる点

1. マニュアルの整備と見直し

標準的な養育支援を行っているものの、マニュアルを作成していない項目がある他、作成しているマニュアルも、定期的な見直しを行っていないものが散見される。マニュアルは支援の標準的な実施方法を記載し、併せて内容の定期的な評価と見直しが望まれる。

支援の標準化と質の向上のために、マニュアルの整備と見直しの体制を確立することを期待したい。

2. 人事管理の充実

年に1回、園長は職員との面談を行っており、資質向上のために具体的な研修計画を作成している。ただし、福祉の人材育成や人員の確保に関する具体的な計画、処遇改善の水準を評価する仕組みは確認できない。

園として期待する職員像を明確化し、同時に職員が将来像を描くことが出来る仕組みを作り、具体的な計画を立案して見直す体制が待たれる。

3. リスクマネジメント体制の更なる構築

避難訓練については毎月の避難訓練に加え、年に1回総合避難訓練を実施しており、災害に対する備えは改善している。一方で、ヒヤリ・ハットの報告がここ3年で大きく減少している。本当に件数が減少したのか、それとも報告が減少したのかを検討し、改善・再発防止策を実施することが望まれる。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

<この度三度目の第三者評価を受審して>

三度目の受審ということで、あまり緊張することなく受けました。しかし、いただいた結果を見て当園の日頃の様子が手にとるようでした。

評価をいただいた点は更に気を引き締めて職員間の連携を深める必要を感じました。

改善を求められる点でも、報・連・相の大切さを感じました。日頃の関わりを大切に、子どもたちに信頼される職員になるよう日々努めて参りたいと職員一同、心を改めております。

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目）Ⅰ 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	第三者 評価結果
<p>① 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念、基本方針が文書（事業計画等の法人・施設内の文書や広報誌、パンフレット、ホームページ等）に記載されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念は、法人・施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人・施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>園の理念と基本方針は、社会福祉法人ブレル会のものと同一であり、ホームページやパンフレットに記載している。</p> <p>園内では月1回の職員会議時に読み合わせを行い、園長が講話の中で説明することで周知を図っている。子どもたちへの周知は、子ども会の最後に園長からの話に織り込むなど工夫していることが確認できる。</p>	

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	第三者 評価結果
<p>① 2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、法人・施設が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。</p> <p><input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>社会福祉事業全体の動向は、新上五島町の担当者からの情報等を中心に得ている。地域の動向として、近くの保育園が廃園になる等、子どもの減少傾向が著しく、今後の見通しが厳しいことを把握している。</p> <p>国の新ビジョンが、養護関係施設には革命的なもので、里親による養育が中心となり、児童養護施設自体は1軒の家のようなユニット化へ進む方向にあることを把握している。</p>	

②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	b
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	

【コメント】

毎朝の朝礼時や職員会議時に、園長の考えを職員に伝えている。毎日の伝達事項に加えて、要所で経営面の話も行っている他、研修で得た情報や理事会の報告も話せる範囲で伝えている。
 人材育成の計画は、職員と個別に面接を行った際に話し、意見交換を行っている。社会福祉士が退職後に補充できておらず、現在課題となっている。この点は若い職員に話し、課題として共有している。

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者 評価結果	
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	○

【コメント】

中・長期計画は、主任と各施設のリーダー的職員が作成している。
 職員会議では園長が計画について全職員に向けて説明しており、園長を除く処遇会議では主任が報告している。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画には、中・長期計画の内容を反映した単年度における事業内容が具体的に示されている。	
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	

【コメント】

平成26年に、平成41年までの施設の推進計画を作成している。職員は、全体的な計画は理解しているが、単年度の具体的な計画は理解していない。
 単年度計画として事務所で作成し保管しているものの、事業計画として職員に周知するまでには至っていない。
 今後の検討・取組みに期待したい。

(2) 事業計画が適切に策定されている。		
①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。	○
【コメント】		
<p>単年度の計画は、事前に朝礼や職員会議などで話し合い、その後園長が中心となり作成している。事業計画の進捗状況はミーティングなどで話し合い、口頭でも確認している。</p> <p>複数年度に渡って、取り組んでいる事業もある。園がどの程度計画に対して実施できているか、ホームミーティングや子ども会で定期的に検証している。ただし、新入職員が事業計画に対する認識が乏しいため、全職員が理解しているとは言えない。今後の取組みが待たれる。</p>		

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	○
【コメント】		
<p>毎月第1月曜日に子ども会を実施しており、職員が園の事業に関する内容を知らせている。進行は子どもたちで行っているが、小学校低学年の児童もいるため、難しい話の時は、職員がわかりやすく説明を行うなど工夫している。</p> <p>保護者に対しては面会時などで極力伝えるようにしているが、子どもによっては施設が情報を守る必要がある場合もあり、全保護者へは実施できていない。</p>		

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		第三者 評価結果
①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C:Check)を行う体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	
【コメント】		
<p>過去2回第三者評価を受審しており、数年をかけてマニュアルを整備してきたことが確認できる。直近では、不審者の対応マニュアルを整備している。</p> <p>また、人権に関する研修も必ず毎年実施している。児童養護施設では先駆的に取組みを実施しているが、第三者評価を受審していない年に自ら自己評価を行うまで至っていない。また、最近では施設の中で評価結果を分析・検討する場が少なくなってきた。今後の取組みに期待したい。</p>		

②	9 評価結果にもとづき施設として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	○

【コメント】

1回目の第三者評価受審後は、園長が中心となり課題に対してリーダーシップを発揮し取り組んだが、2回目以降は、職員会議などで課題は共有しているものの、改善の取組みが計画的に実施するに至っていない。今回は3回目であり、今後は園長の声掛けだけでなく、評価結果から改善点を抽出し、計画的に改善する仕組みを職員を含む園全体で作ることが望まれる。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。	第三者 評価結果
① 10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○
<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(災害、事故等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	○

【コメント】

年1回、園だよりである“つばさ”を発行し、園長がメッセージを掲載している。ただし、この中では自らの役割と責任についての表明は確認できなかった。職務分担表を作成し、それぞれの役割と責任を明文化している。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	○

【コメント】

園長は遵守すべき法令の研修会には積極的に参加している。最近の具体例では、平成28年7月の研修で虐待、労務、社会福祉法に関する研修を受講し、職員会で報告している。また、全国の施設長会議で、新しい社会的養育ビジョンや子どもの権利条約に関する研修を受講しており、職員へ伝達すると同時に、法令等の理解に努めている。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。		
①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○
【コメント】		
園長は職員と面接を行い、子どもの状況や養育環境の把握に努めている。また、養育・支援の質の向上のために研修計画を作成し、知識の習得が必要な職員に受講を促すと共に、自らも研修参加の機会を確保している。		

②	13 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○
【コメント】		
人事に関しては、園長が主任と事務職員に提案し、相談の上決定している。処遇改善については、今回より育児休暇を導入する等、人員配置を含めて働きやすい環境整備に努めている。 新人に対しては、1、2年間は本館で従事させる等の配慮も行っている。ただし、施設の性格上、経営の改善に対する指導力の発揮は困難な状況にある。		

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		第三者 評価結果
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	○
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 法人・施設として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	○
【コメント】		
児童養護施設は専門職が必要とするが、園長自らハローワークや行政等の各関係機関に働きかけ、福祉人材の確保に全力で取り組んでいる。また、職員の確保に関して事業計画に位置付けており、計画的に人員を採用している。 ただし、退職数に対して採用数が確保されているとは言えない。現在は、“個別対応職員加算”“小規模グループケア加算”を取得しており、専門職も配置し、栄養士や保育士、心理療法担当者や里親支援相談員も勤務しているが、小規模化が進んでおり、今まで以上の確保のための努力が必要になってくる。今後も取組みが望まれる。		

②	15 総合的な人事管理が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 法人・施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	
	<input type="checkbox"/> 職員が、自ら将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みづくりができて	
	いる。	

【コメント】

就業規則の中で、学園の求める職員としての心構えを明示している。人事基準についても就業規則や給与規定で定められているが、人事考課制度は実施していない。さらに評価制度はあるが、実際に評価・表彰された職員はいない。

職員が資格を取得したい場合は、園から受講させる体制はあるが、現在は一部の職員との面談であり、今後、全職員と面談の機会を設ける予定とのことである。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の悩み相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような施設内の工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	
	<input type="checkbox"/> 人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	

【コメント】

職員の意向を含め人事異動が実施されている。有給休暇は本人が主任へ伺いを立て、園長が承認する体制が確立しており、年次休暇は調理員も対象となっている。

職員が悩んだ時は、心理士やスーパーバイザーへ相談できる窓口や体制を確保し、実際に行っている。心理士は以前勤務していた職員であり、現職員も話しやすい環境にある。

職員が地域の野球教室に参加し活動しており、必要な場合費用の一部を補助している。働きやすい環境を整えるべく園長を中心に努力しているが、人員の確保は難しい状況である。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	c
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標が設定されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりの目標の設定は、目標項目、目標水準、目標期限が明確にされた適切なものとなっている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	

【コメント】

園では、職員に対し外部を含め研修機会を多く取っており、多くの職員が研修に参加し、支援の質が向上するよう取り組んでいる。数年前までは個人面接を行うなど実施していたが、今年度はできていない。
 ここ数年、退職者や新規採用があったことで、職員一人ひとりの育成計画は策定していない。今後の取組みに期待したい。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	

【コメント】

就業規則や基本方針に、職員に期待する考えを記載している。園として児童や生徒に対する支援に必要な資格や研修計画がある。個別に面接を行い、本人の意向を確認したり研修後のレポートの提出や発表を行うことで、評価もできている。単年度計画には、専門職の採用について明示していることが確認できる。
 職員との面談を実施しているが、一部に留まっており、計画の評価・見直しが定期的実施しておらず、今後の取組みに期待したい。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○

【コメント】

職員に対する研修の機会を多く確保し、島外へも積極的に参加していることが確認できる。新任の職員に対しては、先輩職員や主任が指導する体制を構築している他、園長も必要に応じOJTを個別に実施している。
 島外研修のみならず外部から講師を呼び学園内でも研修を行い、職員の資質向上に努めている。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。		
①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の教育・育成についてのマニュアルが整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○
【コメント】		
<p>実習生の受入れについては、保育士や社会福祉士など本人が取得する資格に応じて、プログラムを組んでいる。主任を中心に実習担当者が指導を行い、守秘義務の重要性についても教育している。</p> <p>なお、実習指導者のための教育・育成に関する体制やマニュアルは作成していない。今後の取組みが望まれる。</p>		

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		第三者 評価結果
①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人・施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公表している。	○
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公表している。	○
	<input type="checkbox"/> 法人・施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人・施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	
【コメント】		
<p>ホームページに施設の事業に関する情報を公開している他、WAMNETにより財務等に関する情報も公開していることが確認できる。また、第三者評価の受審や苦情・相談に対する対応も公表している。地域に対しては、年に1回発行する園で行っている活動内容を掲載した“つばさ”を配付している。</p>		
②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等に関するルールが明確にされ、職員等に周知している。	
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等に関する職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等について、必要に応じて外部の専門家に相談し、助言を得ている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○
	<input type="checkbox"/> 外部監査の活用等により、事業、財務に関する外部の専門家によるチェックを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 外部監査の結果や公認会計士等による指導や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○
【コメント】		
<p>施設における事務・経理・取引等はルール化しているが、一般職員は見る事が出来ない。会計事務所が4ヶ月に1回訪問し、財務に関する助言を得ている。また、社会保険労務士事務所が年2回および研修等必要に応じて訪問しており、労務面に関する情報や助言を得ている。</p>		

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。		第三者 評価結果
①	23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの個別の状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	○
【コメント】		
<p>地域との関わり方については、処遇方針として明文化している。またバザーや清掃活動を通じて、地域との交流に努めている。運動場では地域の子どもたちが球技を楽しむことが多く、17時には帰園するよう指導している。月に1回、フリーデーを設けて、買い物に出掛けるなど、地域との交流の機会が多い。</p> <p>シスターは教会での奉仕活動等を通じて、地域との交流を行っている。</p>		
②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している	
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 学校教育への協力を行っている。	○
【コメント】		
<p>ボランティアの受入れは積極的に行っており、特にバザー開催時は多くの住民が関わっている。また、職員が小学校の広報委員や役員として、地域と関わりがある。</p> <p>小学校では、職員が保護者の代理者として出席したり、クラス担任と面談し生活状況を共有している。現時点はボランティアに対する基本姿勢の明文化やマニュアルの作成は行っていない。今後の取組みが待たれる。</p>		
(2) 関係機関との連携が確保されている。		
①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	○
【コメント】		
<p>児童相談所をはじめ各学校や警察など、多くの関係機関と連携を図っている。パンフレットを作成し配布したり、保育園や心理士などのリストも作成している。職員は子どもたちが通っている学校の授業参観に出席したり、会合への参加も積極的に行っている。</p> <p>園の運動場を開放し、地域の子どもたちがサッカーなどで交流できるように工夫している他、心理士が地域の住民に向けて心理指導を行った事例がある。</p>		

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 施設が有する機能を地域に還元している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設のスペースを活用して地域住民との交流を意図した取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かし、地域住民の生活に役立つ講演会や研修会等を開催して、地域へ参加を呼びかけている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かした相談支援事業、支援を必要とする地域住民のためのサークル活動等、地域ニーズに応じ住民が自由に参加できる多様な支援活動を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 災害時の地域における役割等について確認がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野に限らず地域の活性化やまちづくりに貢献している。	○

【コメント】

園の運動場を地域に開放し、夜間帯でも遊べるようにライトを設置している。また、図書館ではDVDや本が読めるようになっている。内部研修に地元住民が参加したり、スーパーバイザーが町や高校で講演を行っている。法人として、生計困難者事業に取り組んでいる他、園でのピアノ教室には地域の子どもが通って来ている。地区総会への出席や夏に開催される“浜であそぼ一で”にも参加し、地域の活性化に貢献している。

②	27 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設の機能を地域に還元することなどを通じて、地域の福祉ニーズの把握に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 民生委員・児童委員等と定期的な会議を開催するなどによって、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業を実施することなどを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	○
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体との連携にもとづき、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	

【コメント】

毎年20名ほどの民生委員が園を訪問しており、交流・意見交換を行っている。母子家庭や子育てについて悩んでいる人からの相談を受付けたこともある。DVのケースで緊急に学園に避難させることで、虐待になる可能性が高い状況を未然に防ぐこともあった。関係機関との関わりは持っているが、具体的な福祉ニーズの把握までは至っていない。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。	第三者 評価結果
<p>① 28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援実施に関する基本姿勢が、個々の養育・支援の標準的な実施方法等に反映されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。</p>	<p>a</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>
<p>【コメント】</p> <p>理念や基本方針に加え、全国児童養護施設協議会が定めた倫理綱領を、職員会議の際に読み合わせている。特に虐待防止マニュアルについては毎日読み合わせを行い、研修にも参加している。</p> <p>自己評価チェックリストを活用しており、×や空欄があった場合は、面接時に確認を行っている。</p>	
<p>② 29 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した養育・支援の実施が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの虐待防止等の権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護と虐待防止に関する知識、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務、子どものプライバシー保護や権利擁護に関する規程・マニュアル等について、職員に研修を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護と権利擁護に関する取組を周知している。</p> <p><input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 不適切な事案が発生した場合の対応方法等が明示されている。</p>	<p>b</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>
<p>【コメント】</p> <p>子どものプライバシー保護のために、高校生には極力個室が使えるよう優先している。被措置児童等虐待対応マニュアルを朝礼時に読み合わせ、園長から権利擁護に関する話を行っている。</p> <p>ただし、プライバシー保護に関しては、就業規則に記載しているものの、マニュアルの整備と見直しは行っていない。今後の取組みが待たれる。</p>	

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	b
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	○

【コメント】

理念や基本方針、施設の内容を記載したパンフレットを用意している。保護者へは可能な場合は説明を行い、同意書に署名を得ているが、不可能な場合は児童相談所が対応している。
子どもに対しては、長崎県が作成している権利ノートを渡して説明している他、見学等の希望には随時応じている。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等がわかりやすいように工夫した資料を用いて説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 説明にあたっては、子どもや保護者等が理解しやすいような工夫や配慮を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	○
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	○

【コメント】

子どもにはパンフレットや権利ノートにて、保護者へは「入所にあたってのお願い」という文書を渡し、説明を行っている。個人情報保護に関する同意書への対応は、児童相談所が行っている。
家に帰りたい等、退所を希望する場合は、本人の同意が必要と決めているが、そのような場面では児童相談所が主導するため、施設としてルール化していない。

③	32 措置変更や地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	○

【コメント】

措置変更等で他の施設へ移行する際は、引継文書を作成している。持参する衣類、生活必需品等の文書を荷物に入れ、さらに本人には小遣いの残金と通帳を持たせている。家庭復帰した例は、今までに無い。
施設を退所した子どもの相談は、主任が窓口となり対応している。また、元担任、主任、園長が出張時には会う時間を持つよう努めている。説明した内容を記載した文書の保管は、行っていない。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。		第三者 評価結果
① 33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。		b
□子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。		
□子どものへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。		○
□職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。		○
□子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。		○
□分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。		○

【コメント】

子どもの満足に対するアンケートは実施していないが、子どもたちは自分の意見を率直に書き、意見箱へ投函している。意見箱は、毎週月曜日に関長が確認する仕組みがある。意見を投じた内容に回答するため、園長と面談する機会もある。子ども会の開催日に、職員が同席し出した意見を検討している。その場で回答できないときは、後日、話し合った結果を子ども会で報告している。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。		
① 34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。		a
□苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。		○
□苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。		○
□苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。		○
□苦情内容については、受付と解決を図った記録が適切に保管している。		○
□苦情内容に関する検討内容や対応策については、子どもや保護者等に必ずフィードバックしている。		○
□苦情内容及び解決結果等は、苦情を申し出た子どもや保護者等に配慮したうえで、公表している。		○
□苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。		○

【コメント】

苦情解決体制を整えており、第三者委員の設置や苦情受付窓口も設けている。子ども会で苦情解決に関する説明を行ったり玄関に掲示している。意見箱の設置があるので、子どもたちは自分の考えを意見箱に投函することが多い。

② 35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。		a
□子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。		○
□子どもや保護者等に、その文章の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。		○
□相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。		○

【コメント】

意見箱を設置していることで、子どもたちは率直な意見を投函している。意見箱は毎週月曜日に主任が開け、園長が確認している。子どもたちは担当の職員だけでなく、心理の先生にも相談することがある。権利ノートを配布したり、ひなたぼっこと称する相談室を設置し、個別に話せる部屋を確保している。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○

【コメント】

子ども会が毎月実施され、子どもたち全員が参加している。マニュアルという形ではないが、長い伝統を守りながら子どもたち自身で運営を行っている。これまで、子どもたちから出た意見は園長を中心に解決に向けて取り組んできているが、小規模グループとなり、各場所で暮らすため相談や意見も違ってきている。今後、園全体としての話し合う機会を作ることや各ホームで暮らす意見の対応をどのようにするか仕組みが必要であると考えられる。検討・取組みに期待したい。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。

第三者
評価結果

①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	

【コメント】

園内にある遊具の点検や事故発生時の対応マニュアルを整備している。子どもたちに対する問題が発生した場合、職員が集まり話し合い検討する仕組みもある。定期的な評価においては、ヒヤリハットの報告が平成24年は14件、平成25年13件、平成26年15件、平成27年9件、平成28年2件、平成29年0件と減少してきていることが確認できる。件数が減少したのか、報告が減少したのか、検証することからはじめ、更なる園の取組みに期待したい。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し、職員に周知徹底している。	○
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の発生した場合には対応が適切に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を定期的に見直している。	○

【コメント】

感染症予防に関しては、感染症対策マニュアルを作成しており、薬剤師が年に1回、見直しを行っている。感染症については、インフルエンザが発生した際は対象者を医務室に集め、感染拡大を防いでいる。また、お祈りの際に、子どもたちへ長崎県からの通知を知らせ、手洗いの励行等指導している。職員間での情報交換は、随時行っている。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、建物・設備類、養育・支援を継続するために必要な対策を講じている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 防災計画等整備し、地元の行政をはじめ、消防署、警察、自治会、福祉関係団体等と連携するなど、体制をもって訓練を実施している。	○

【コメント】

年に1回、消防署による総合避難訓練を実施している。災害時の対策として、食料品は3日分を備蓄しており、リストを作成して管理している。土砂災害防災対策組織表、火災時の避難通報誘導マニュアル、職員連絡網を作成しており、避難訓練時に活用している。

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。		第三者 評価結果
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重、プライバシーの保護や権利擁護に関わる姿勢が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	○

【コメント】

養育・支援に対する標準的なマニュアル等の文書は作成していない。研修までには至っていないが、各々の子どもに応じた個別的な指導を行っている。個別の指導内容については職員間で必要に応じ共有している。標準的なマニュアル作成についての検討・取組みに期待したい。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	○

【コメント】

自立支援計画の見直しについては、1人につき前期は5月から10月、後期は11月から4月として年2回実施している。ミーティングには処遇職員全員と厨房の職員が加わっている。見直した項目は赤で記入し、明確にわかるよう工夫していることが確認できる。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズが明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	○

【コメント】

自立支援計画の最終責任者は園長であり、アセスメントは園の定めた様式を使用している。直接処遇職員のみならず、調理員なども支援計画を作成する際は会議に参加している。
自立支援計画は一人ひとりのファイルが作られており、毎月会議を実施している。また、支援困難ケースに対しては心理士などから助言を得ながら計画を作成している。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○

【コメント】

1年に1回、支援計画の見直しは行っている。担当職員が子どもと面談したり、日頃の生活の中で把握した情報をアセスメントした上で、原案を作成している。原案は、他の職員とのミーティングで共有している。また、児童相談所へ報告する場合や園が必要と認めた場合は計画を変更する仕組みもある。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの閲覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○

【コメント】

園で生活している子どもたちの生活状況を毎月担当職員が記載し、期日までに提出する仕組みがある。支援計画や日々の支援実施状況をパソコンに入力し、職員間で閲覧できる。記録の書き方は、主任、園長の順で確認しており、指導することもある。

園は各ホームでの勤務や就業時間帯が違うため、引き継ぎノートを活用して情報の共有を図っている。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	c
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	

【コメント】

個人情報の取り扱いを徹底し、記録の保管責任者は主任となっている。また、個人情報保護について職員会議で話し合う他、研修参加もある。保護者に対しても説明を行い、みだりに使用しないよう注意している。ただし、個人情報保護規定や保管・保存・廃棄に関する資料を確認することができない。今後の取組みが待たれる。

内容評価基準（41項目） A-1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮		第三者 評価結果
①	A1 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容が子どもにとって最善の利益になっているかを、振り返り検証する機会が設けられている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの養育や成長にとって何が最善なのかを、職員間において常に話し合える環境にある。	○
	<input type="checkbox"/> 職員が日々子どもとのやり取りを振り返り、必要に応じてスーパービジョンを受けられる環境が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 受容的・支持的なかかわりを基本としながらも、養育者として伝えるべきメッセージはきちんと伝えるなど、子どもの状況に応じて適切な対応ができるよう、常に子どもの最善の利益を考慮し真摯に向き合っている。	○

【コメント】

養育・支援の内容については、ミーティングや月末の職員会議、ケース会議時に情報交換を行っている。スーパービジョンを受ける機会は以前と比較すると減少しているが、今後また体制を整えるとのことである。長崎県社会福祉協議会のスーパーバイザーについての研修会には、随時参加している。新人に対しては、ベテラン職員がOJTにて子どもと職員のやり取りの注意点等、状況を確認しながら助言している。

②	A2 子どもの発達段階に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達段階等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	○
	<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	○

【コメント】

子どもの家族状況は職員全員が把握しており、ミーティングで生育歴を紹介している。子どもに告知した際のフォローは担当職員が行い、翌日の職員会議で伝達しているが、最近は伝えたケースが無い。年1回、児童相談所のフォローアップの際に、生い立ちの整理を行っている。しかし、児童相談所の職員は毎年替わり、過去を知らないことがほとんどとなっている。

(2) 権利についての説明

①	A3 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。	b
	<input type="checkbox"/> 定期的に全体の場で権利についての理解を深めるよう、子どもたちに説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、施設生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 年齢に配慮した説明を工夫している。(例えば高校生、中学生、小学生などに分けた説明の機会)	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないことまた、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	○

【コメント】

子ども会の際に、権利ノート等を利用して権利について説明している。また、意見箱を使うよう伝えており、子どもは権利が大切なものと感じている。小学生には「みんなのしあわせのために」、中・高校生には「みんなの幸せのために」という冊子を使って、年齢に配慮して説明している。ユニット化を行った際には、こたつに入った状態で説明する計画がある。

(3) 他者の尊重

①	A4 様々な生活体験や多くの人たちとのふれあいを通して、他者への心づかいや他者の立場に配慮する心が育まれるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼感を獲得するなど良好な人間関係を築くために職員と子どもとが個別的にふれあう時間を確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 喧嘩など子ども間でトラブルが生じた場合、相手の人格を尊重しながら、基本的には子ども同士で関係を修復できるよう支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 日々の生活や行事等で、子どもが協働して行う場面では、助け合い、認め合い、協力し合い、感謝し合う態度を促進するよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど弱い立場にある仲間に対しては、思いやりの心をもって接するように支援している。	○

【コメント】

各ホームで職員と子どもたちが、一緒に個別に過ごせる時間を確保している。言葉遣いに気をつけ、目上の人に対する関わり方を指導している。日常では、食事時に使った食器をテーブルごとに片付けたり、どんな時も挨拶をしっかりとできるように伝えている。互いの考えや意見を聞き、一方的に決めつけないように職員が配慮し、関わっている。

(4) 被措置児童等虐待対応

①	A5 いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。	a
	<input type="checkbox"/> 「就業規則」等の規程に体罰等の禁止を明記しており、規程に基づいて厳正に処分などを行う仕組みが行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待防止ガイドラインに示されているような具体的な例を示して、日常的な会議や研修会等で体罰等を禁止している。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等への虐待行為や不適切対応があった場合、主管行政窓口や児童相談所等に報告するとともに第三者委員等も入れて適切な調査をし、対処することが出来ている。	○

【コメント】

園では毎朝朝礼時に「被措置児童等虐待対応マニュアル」を音読している。平成29年も虐待予防研修を園内で開いたり、各関係機関と連携を図っている。

②	A6 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりがあった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や方法・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行うような仕組みがとられている。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりを発見した場合には、記録し、必ず施設長等に報告することが明文化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 暴力、人格的辱め、心理的虐待などの不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示し、職員に徹底している。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止を徹底するため、日常的に会議等で取り上げ、行われていないことを確認している。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示して、子どもに周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けている。	○

【コメント】

朝礼時に園長がニュースなどの事例を伝えながら、不適切な関わりがないように指導している。子ども会などでも人権について話し合う機会を設けている。
職員が互いに情報を共有し、不適切な関わりがないよう日頃から気をつけるよう努力している。

③	A7 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について、対応マニュアルが整備され、かつ日常的に活用できるようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告があった場合に、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができています。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明しているとともに、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	○

【コメント】

被措置児童虐待対応マニュアルを作成し毎日、朝礼時に復唱している。虐待などが疑われる事案が生じた場合は、苦情処理も含めて迅速に対応できる体制を整えている。子どもたちがいつでも知らせることができるよう、意見箱の近くに掲示している。

(5) 思想や信教の自由の保障

①	A8 子どもや保護者等の思想や信教の自由を保障している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者の思想・信教の自由については、最大限に配慮し保障している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設において子どもや保護者の思想や信教の自由を保障しようと努めているが十分ではない。	○
	<input type="checkbox"/> 保護者等の思想・信教によってその子どもの権利が損なわれないよう配慮している。	○

【コメント】

カトリックの施設であり、本人の意思とは関係なく、宗教行事への参加を行っている。起床時と就寝時には3種類の祈りを行っているが、カトリックの祈りを拒否する保護者はいない。
子どもは集まるのが好きであり、参加を拒む子どもはおらず、月に1回第4金曜日には修道院の講堂でミサを行い、鯛ノ浦教会の神父による説教もある。
なお、カトリック以外の職員と一緒に初詣に行く等、日本文化も尊重している。

(6) こどもの意向や主体性への配慮

①	A9 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、そこから分離されることに伴う不安を理解し受けとめ、不安の解消を図っている。	b
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎える準備をしているなど様々な工夫を凝らし、受け入れについて施設全体で行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 被虐待体験だけでなく、子どもの分離体験に関して施設側が理解し、配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 分離体験からの回復に関する課題への具体的な取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 入所の相談から施設での生活が始まるまで、子どもや保護者等への対応についての手順を定めており、定期的に見直しを行い、実践している。	

【コメント】

子どもが入所する際は、ウェルカムボードを作成し、歓迎会を行っている。子どもは担当職員と一緒に部屋に入り、説明を受け登校時には児童相談所の職員が同行している。児童相談所からの資料には、職員全員が目を通して見ている。ただし、子どもや保護者への対応方法を定めた手順書は作成していない。今後の取組みが待たれる。

②	A10 職員と子どもが共生の意識を持ち、子どもの意向を尊重しながら生活全般について共に考え、生活改善に向けて積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 生活改善に向けての取組を職員と子どもが共に考え、実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 生活日課や生活プログラムは子どもとの話し合いを通じて策定している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	○

【コメント】

月に1回、子ども会を開催し、子どもからの意見・要望を聞いている。また子ども会の前に各ホームでホームミーティングを行い、ホームからの意見を部屋長が発表している。携帯電話の所持を希望する子どもが多く、所持を許可する方向で、まず職員が勉強を行っている。

(7) 主体性、自律性を尊重した日常生活

①	A11 日々の暮らしや、余暇の過ごし方など健全な生活のあり方について、子ども自身が主体的に考え生活できるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもの趣味や興味、生活文化にあった生活になるように子どもの意見を反映させ、適宜変更している。	○
	<input type="checkbox"/> 図書、雑誌、新聞等、またテレビ、ビデオ、オーディオ等が、子どもの健全な発達に考慮したうえで、自由に使用できる。また、ゲームの適切な使用の配慮がされている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが主体的に生活に関わることができるよう工夫がされている。	○
	<input type="checkbox"/> 活動に対して自発的な参加を促すよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 行事等の参画について、子ども一人ひとりの選択を尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが地域の活動等に参加することを望む場合、可能な限りそれに応えている。	○

【コメント】

子ども一人ひとりの趣味や興味を大切に、各部屋は本人が安心できる物を置いたり飾ったりしている。テレビやゲームの使用については子ども会で話し合って、みんなで約束事として決めている。

さまざまなクラブ活動を準備し、自分たちで学びたいことができる仕組みが確立されている。地域行事や子どもたちの自主性を尊重し、できる限り活動ができるように支援している。

②	A12 子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 小遣い帳や通帳を使って、限られたお金を計画的に使用する、金銭の自己管理ができるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 大人と一緒に買物に行ったり、一人で買物をさせるなど物の値段の相場や、金銭感覚が身につくよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立を控えた子どもなど、必要な子どもに対し、一定の生活費の範囲で生活することを学ぶプログラムを実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 児童手当等について、子どもの目的にあわせ適切に使用または貯蓄をしている。	○

【コメント】

子どもたちがお金の大切さを知るために、お小遣い帳を作り毎月の収入や支出管理ができるように支援している。職員と数人の子どもたちが一緒に買い物に行き、商品や品物を選びお金の計算を行い会計を体験している。高校を卒業する生徒を対象に、自立に向けて1週間1人暮らしを体験させるなどプログラムがある。児童手当は、本人の通帳へ貯蓄している。

(8) 継続性とアフターケア

①	A13 家庭復帰にあたって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう復帰後の支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰にあたって復帰後の生活を検討している。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰後の子どもや家族の状況把握や支援方法など関係機関との役割を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰相談を受けることを本人、保護者等に伝えている。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰後の子どもや保護者等の状況の把握に努め記録を整備している。	

【コメント】

家庭復帰を目指し、保護者や各関係機関と連携を図っている。家庭復帰は、ミーティング時や職員会議で複数回話し合っている。家庭環境によって対応もさまざまであるが、電話や手紙でやり取りしている家族もいる。今年度は、家庭復帰を果たした子どもがいるが、その後の情報把握はできていない。今後の取組みに期待したい。

②	A14 できる限り公平な社会へのスタートが切れるように、措置継続や措置延長を積極的に利用して継続して支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 高校進学が困難な子どもや高校中退の子どもなどについて措置継続を行い、自立に向けた支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 措置延長の期間は、就労支援や就労生活を支援するなど、自立への道筋をつけていく取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	○

【コメント】

高校を卒業した子どもについて措置延長を申請し、9月まで関わるできるようになった事例がある。これまでに、卒園後、子どもから「1人暮らしが不安である」との発言があり、職員が定期的に自宅を訪問したり、同じ社会人として食事に行くなど支援しており、退所後も自立するまで見守り、支援していることが窺える。

③	A15 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	○

【コメント】

退所後の子どもからの連絡は、園長の携帯電話に随時かかってきている他、退所後の相談窓口は、主任が窓口となっている。退所者の住所録は一時整備していたが、莫大な数になったため、最近は整備していないとのことである。年賀状は園長が管理している。
退所後の子どもが住んでいるアパートの貸主から電話があった場合は、長崎市内まで出向いて対応した例もある。退所者は帰省時を中心に、バザーの手伝いやバーベキュー、誕生会等の行事に随時参加しており、関係を断つことなく、交流の機会があることが窺える。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果
①	A16 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	b
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども達に職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	

【コメント】

子どもが話してきた際は、きちんと向き合って話を聞くよう心がけている。ただし、職員は経験が足りなかったり、経験があっても知識が足りないと感じることがあり、研修の受講機会を確保している。
特に新入職員は、自分の子育て経験を現場に持ち込むことが多く、「なぜ出来ないのか」と疑問を抱くことが多い。このため園では専門家を招いて研修を行い、子どもの成育歴への理解を深めることに努めている。

②	A17 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	○
	<input type="checkbox"/> 高齢児の日課は、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別的に触れ合う時間を確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	○

【コメント】

子ども一人ひとりの欲求は、直接話したり子供会で意見を交わしたり、意見箱により把握している。子どもと個別的に触れ合う機会として、職員と一緒によくドライブに出掛けている。

朝は、心地よい目覚めとなるよう、朝6時の起床時には目覚まし時計ではなく、音楽を鳴らすなど工夫している。さらに、小さな子どもに随時対応出来るよう、宿直室の電気は点けっぱなしにしており、安心感に配慮している。

③	A18 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は必要以上の指示や制止をしていない。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切にし、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	○
	<input type="checkbox"/> 朝・夕の忙しい時間帯にも、職員が子どもを十分に掌握、援助できるように、職員の配置に配慮している。	○

【コメント】

子どもを見守り、子どもがいる時間帯に合わせて職員の数を増やす等、配慮している。誉めて伸ばす場合と叱咤激励する場合が半々となっている。以前、万引きが多い時期があったが、警察から話してもらい、店側からも叱ってもらったことがある。

④	A19 発達段階に応じた学びや遊びの場を保障している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設内での保育が、年齢や発達状況に応じたプログラムの下、実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握できている。必要性があれば可能な限りニーズに応えている。	○
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	○
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	○
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	○
	<input type="checkbox"/> 幼稚園に就園させている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(ボランティア等)が十分に活用されている。	○

【コメント】

子どもに合った遊具を設置している。また図書の購入や寄贈の際は、子どもたちの希望を聞くよう心がけている。幼稚園への就園は、施設内保育で信頼関係を築いた上で行っている。小遣いは小学生には持たせず、中学生から持たせており、カードゲームは本人が小遣いで購入している。

⑤	A20 秩序ある生活を通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 職員の指示や声かけが適切で、施設全体が穏やかな雰囲気の中で秩序ある生活が営まれている。	○
	<input type="checkbox"/> 普段から、職員が振る舞いや態度で模範を示している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設生活・社会生活の規範等守るべきルール、「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解できるよう子どもに説明し、責任ある行動をとるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 見やすくわかりやすい掲示物など、子どもが社会生活を営む上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会的ルールを習得する機会を設けている。	○

【コメント】

小規模化に取り組んでおり、子どもたちも少人数の生活で、家庭的な雰囲気に慣れつつある。職員は子どもたちと一緒に日曜大工や調理、裁縫、掃除を行い将来に向けて学ぶ機会を与えている。県内の児童養護施設全体で開催されるバレー大会や野球大会へ参加したり、地域のマラソン大会などにも参加している。

(2) 食生活

①	A21 食事は、団らんの場でもあり、おいしく楽しみながら食事ができるよう工夫している。	a
	<input type="checkbox"/> 食事の時間が適切で、食事を通して生活のリズムが形成されている。	○
	<input type="checkbox"/> 無理なく楽しみながら食事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれている。	○
	<input type="checkbox"/> 食事の時間が、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 陶器の食器等を使用したり、盛りつけやテーブルの飾りつけの工夫など、食事をおいしく食べられるように工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> クラブ活動等子どもの事情に応じて、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設外での食事、来客を迎えての食事など、食事を楽しむ多様な機会を設けている。	○

【コメント】

食事は毎食決まった時間に準備しており、量や大きさを年齢や性別によって配慮している。家庭的な雰囲気ですべれるような工夫もあり、各ホームで作ったり、パンや白米など日によってメニューを変えている。職員は、みんなが揃って食卓を囲むように配慮し、食事は会話しながら楽しく食べれるよう努めている。“洋食の日”に、ナイフとフォークの使い方を学ぶ機会があることは特長である。

②	A22 子どもの嗜好や健康状態に配慮した食事を提供している。	a
	<input type="checkbox"/> 配慮のこもった献立であるとともに子どもの発育に必要な栄養摂取量を満たした食事を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢、障害や疾病、食物アレルギーなど子どもの心身の状況、また体調など日々の健康状態に応じ、それらに配慮した食事を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 少数の子どもを対象として家庭的な環境の下で調理するときであっても、配慮のこもった献立であり栄養面も勘案されるよう、献立について振り返る機会がある。	○

【コメント】

子どもたちの嗜好を把握するため子ども会などで意見を聞いている。食育会議を3ヶ月に1回開催し、職員会議やホームミーティング時に要望を取り入れている。
ピーナッツやわさびのアレルギーがある子どもがいる場合は、代用品を用意したり、土・日曜日は子どもたちが好きな献立を調理するなど、楽しい食事時間となるよう努めている。

③	A23 子どもの発達段階に応じて食習慣を身につけることができるよう食育を推進している。	b
	<input type="checkbox"/> 食習慣の習得を、無理なく楽しみながら身につけられるよう工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 日々提供される食事について献立の提示等食に関する情報提供等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 食品分類やおやつ摂り方等、栄養についての正しい知識を教えている。	
	<input type="checkbox"/> 偏食の指導を適切に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 郷土料理、季節の料理、伝統行事の料理などに触れる機会をもち、食文化を継承できるようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 買い物を手伝って材料の選び方を知る機会を設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 箸、ナイフ・フォーク等食器の使い方や食事のマナーが習得できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつを作る機会を設けている。	○
	<input type="checkbox"/> テーブル拭き、食器洗い、食器消毒、残飯処理など食後の後片づけの習慣が習得できるよう支援している。	○

【コメント】

献立表を作成し、子どもが見える場所に掲示している。各ホームで調理しており、女子学生の多いホームでは一緒に作ったり、協力しながら調理をすることもある。小学生低学年のいるホームでは、偏食をなくすための取組みを行っている。

家庭菜園で作った野菜を使ったり、五島うどんなどの郷土料理や正月の雑煮など行事食を調理している。ナザレトやカナの家では職員と子どもが買い物と一緒に出掛けている。職員の指導の下、子どもたちは食事後、テーブルを拭いたり皿を下げるなど片付ける習慣を身に付けている。

(3) 衣生活

①	A24 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	○
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	○
	<input type="checkbox"/> 靴についても清潔で体に合ったものが提供され、汚れや水濡れにも適切に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	○
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 発達段階や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	○

【コメント】

本人の成長に合わせて洋服を購入したり、必要数準備している。子どもたちは気に入った衣類や靴を連続して着用するため、靴に穴が開いたり汚れたままでも使用してしまっていることがあり、職員が声を掛けて洗濯したり、買い替えを行っている。制服をハンガーにかけたり、アイロンをかけるときは子どもたちと同じ空間にて行い、仕方を教えることもある。子ども自身が好きな洋服や柄を選べるように配慮している。

(4) 住生活

①	A25 居室等施設全体がきれいに整美されている。	b
	<input type="checkbox"/> 庭がきれいに清掃され、樹木や草花の植栽にも配慮が届いている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 室内は明るく、花や絵画が飾られるなど、温かみのある環境になっている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> トイレ、洗面所等は性別や年齢に応じて使いやすいうように配慮している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて、冷暖房設備を整備している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れていたり壊れていたりしていない。破損箇所については必要な修繕を迅速に行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 発達段階や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	

【コメント】

園庭の清掃・管理はパート職員が行っており、環境維持に努めている。トイレは温水洗浄便座にする等、使いやすさに配慮している。破損箇所の修繕も可能なものは、パート職員により迅速に行われている。なお、子どもの中には整理整頓や掃除が身についていない子どもがおり、タンスにラベルを貼る等、視覚に訴える工夫をしていることが確認できる。

②	A26 子ども一人ひとりの居場所が確保され、安全、安心を感じる場所となるようにしている。	a
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> リビングや居室は子どもが安心していられる場所になるような配慮がされている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 年少児の居室は、職員の目の届きやすいところに配置している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

リビングの向かい側が食堂になっており、食堂も調理しながら子どもの様子を見ることが出来るよう、対面式のキッチンを用意している。グループホームに限らず、本体施設も少人数で構成している。年少児の居室は、本人が安心して過ごせるように、職員の目が届きやすいところに配置している。

(5) 健康と安全

①	A27 発達段階に応じ、身体健康（清潔、病気、事故等）について自己管理ができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 常に良好な健康状態を保持できるよう、睡眠、食事摂取、排泄、生理等の状況を職員がきちんと把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 手洗いやうがいの習慣が身に付くよう支援している。年少児については排泄後の始末や入浴の介助をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 洗面、整髪、ひげそり、歯磨き、つめ切り、耳そうじ等身だしなみについて、発達に応じて自ら行えるよう支援している。また必要に応じて入浴やシャワーが利用できるなどの配慮がされている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に理美容をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 寝具の日光消毒や衣類などを清潔に保つなど、衛生管理ができるよう支援している。また夜尿のある子どもについては、子どもの自尊心に配慮しながら支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設内外における危険箇所等を把握し、子どもの発達段階に応じて、危険物の取扱いや危険な物・場所・行為から身を守るための支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの交通事故を防止するため、交通ルール等について日頃から子どもに教えている。	○

【コメント】

洗面台では、冬は湯が出る。ひげそりについては、カミソリ使用時のみ男性職員が指導している。理美容は、職員が整髪することもあるが、行きつけの理美容院があり、女子は好みの美容院に職員が送迎している。
寝具については、ダニ退治機能のついた掃除機の寄贈があり活用している。施設の危険箇所についてはチェックリストを使って、状況を把握している。

②	A28 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> あらかじめ関係機関の協力が得られるよう体制整備をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理が必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	○

【コメント】

年1回、上五島病院の薬剤師や小児科の医師を招いて薬に関する勉強会を開いており、子どもと職員と一緒に受講している。健康診断は学校で受診している。
年1回、上五島病院の嘱託医が来園する他、時間外でも対応してもらおう等、連携を取っている。定期的に通院している子どもがおり、薬は職員室で保管している。

(6) 性に関する教育

①	A29 子どもの年齢・発達段階に応じて、他者の性を尊重する心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	b
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達段階に応じたカリキュラムを用意し、支援している。	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性教育のあり方について学習会などを職員や子どもに対して実施している。	<input type="radio"/>

【コメント】

男女交際については、職員が把握している。性についての相談は、同性の職員がその都度対応している。性教育については小学生と中・高生に分けて職員が行っている。中・高生女子に対しては、上五島保健所の保健師により教育が行われているが、男子にはそのような機会が確保出来ていない。今後の取組みが待たれる。

(7) 自己領域の確保

①	A30 でき得る限り他児との共有の物をなくし、個人所有とするようにしている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが小さい頃から、自他の境界線がわかるような支援方法を心がけている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 個人の所有物が保管できるよう個々にロッカー、タンス等を整備している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 紛失防止のためにも、個々の子どもたちに片付け方を教えている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 個人所有の物は、でき得る限り子どもの好みを尊重している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> まだ字が読めない子どもに対しては、イラストマークを使用するなどして、所有物がわかる工夫をしている。記名やマークは、でき得る限り子どもからの許可を得、子どもが恥ずかしがらなくても済むような場所に留める。	<input type="radio"/>

【コメント】

小学生低学年の子どもにはシールに名前を書き、自分の物であることを分かるよう工夫している。洋服の裏生地などに名前を記入したり、子どもたちの部屋には自分の荷物を置ける場所もある。
シャンプーやリンスは自分の好みのもを選び購入し、使用している。各ホームの職員は、一緒に片付けを行ったり、口頭で指導している。

②	A31 成長の記録（アルバム等）が整理され、成長の過程を振り返ることができるようにしている。	a
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録（アルバム等）が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集、整理に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返ることができ、子どもの生い立ちの整理につながっている。	○
	<input type="checkbox"/> 可能な子どもとは共に、成長の記録（アルバム等）を整理している。	○
	<input type="checkbox"/> アルバム等は年齢や状況に応じて個人が保管し、子どもがいつでも見ることができる。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが施設を退所する時に、成長記録（アルバム等）が手渡されている。	○

【コメント】

学園や地域行事が実施された際に写真を撮り、後日、欲しい写真は現像し、個人購入できるようになっている。職員は、行事や子どもたちの成長の記録を写真で残しており、アルバムを作成し卒業するときに渡している。

(8) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A32 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の影響を施設全体で立て直そうと努力している。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	○
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	○

【コメント】

子どもに怒りの感情や社会的問題があった場合、職員は本人の思いを理解するように心がけている。1人になる時間や部屋を確保している。職員間でも、日々のミーティングや会議、学園内外で研修会を実施するなど、適切な対応が図れるよう努めている。

②	A33 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 人権に対する子どもの意識を育むよう支援をしている。日頃から他人に対する配慮の気持ちや接し方を職員が模範となって示し、子どもへ説明をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方についても点検を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 課題を持った子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	○

【コメント】

毎月、子ども会を開催し自分たちの学園生活について、意見を出し合っている。高学年の子どもに対して、低学年の子どもの面倒をみることを行事や日頃の日課の中で自然に伝え、理解を促している。
 子どもたちの中で暴力を振るおうとする行為が見られた場合は、男性職員などが毅然とした態度で関わっている。小規模化を進めているが、その中でも子ども同士の性格や年齢などを考慮し、仲良く生活が送れるように取り組んでいる。年度途中で、居室変更が必要な場合は、職員が話し合っている。

③	A34 虐待を受けた子ども等、保護者等からの強引な引取りの可能性がある場合、子どもの安全が確保されるよう努めている。	a
	<input type="checkbox"/> 強引な引取りのための対応について職員に周知徹底している。	○
	<input type="checkbox"/> 引取りの可否等について、児童相談所との連絡を適宜行い、判断が不統一にならないようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 緊急時には協力を依頼できるよう、警察との連携を図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 強引な引取りが考えられる場合、他の子どもへの安全についても配慮がされている。	○

【コメント】

緊急に受け入れた場合や受け入れた子どもを親が引き取ろうとした時は、園長が対応することとなっている。園長は、強引な引き取りが起こりうる可能性を事前にキャッチし、職員と情報を共有し、起こる前に対応するよう指示している他、児童相談所や警察署と連携を取っている。

(9) 心理的ケア

①	A35 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 心理的な支援を必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 心理的なケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて心理の専門家から直接的支援を受ける体制が整っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 心理的支援を行うことができる有資格者を配置し、心理療法室を設置している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

子ども一人ひとりの自立支援計画を作成しており、心理的支援が必要な子どもに対しては、外部より心理士やスーパーバイザーが来所時に面談している。
 心理士などは職員に対して、子どもの抱えている問題や課題を伝えたり、職員に対して研修を定期的実施している。子どもとの面談は、“ひなたぼっこ”と称する相談室を設置している。
 一定の取組みは実施しているが、常勤職員配置には至っていない。

(10) 学習・進学支援、進路支援等

①	A36 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるように個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 障害を持つ子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

小学生を中心に公文による学習指導を行っている。宿題等に支援が必要な子どもには、職員が対応している。家庭教師や学習塾の活用は今年はないが、以前は習字の段位を取得した子どももいた。忘れ物をした子どもに対しては、職員が学校まで届けている。

②	A37 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 早い時期から進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 奨学金など進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報等も提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 中卒児・高校中退児に対して、就労させながら施設入所を継続することで十分な社会経験を積めるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて努力をしている。	○

【コメント】

進路選択にあたっては、本人が学校と話し、保護者に報告して進路を決定している。4月からの居住先まで、職員が同行している。中途退学生に対しては措置延長で対応した例も有り、進路の支援に努めている。

③	A38 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	○
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	○
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	○

【コメント】

アルバイトは高校が許可していないが、資格取得は認めており、実際に茶道の免状を取得した子どももいる。これまでに、パティシエ希望の子どもが、ケーキ店にて高評価を得ている事例がある。

園では、運転免許の取得も認めており、パソコンのスキルアップ希望者へは補助金を受ける方法を紹介する等、支援に努めている。

(11) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A39 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	○

【コメント】

保護者との連絡は延長や担当職員が行っている。一時帰宅が可能な子どもには、定期的に夏と冬の年2回行っており、時にゴールデンウィークや慶弔時に必要に応じて行っている。

帰省時には帰省一覧表を作成し、誓約書、成績表と土産を持たせ、同時に施設に残る子どもの一覧表も作成している。運動会の際には、重箱に家族分も含めた弁当を作って持たせている。運動会来園父母一覧表も作成し、保護者の参加状況を把握している。

(12)	親子関係の再構築支援	<p>① A40 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。</p>	<p>b</p> <p></p> <p>○</p> <p>○</p>
【コメント】			
<p>施設内に親子で宿泊できる部屋を確保している。保護者が来園した時は、主任が家庭支援専門相談員として親の状況をまとめている。この状況は他の職員に口頭では伝えているが、記録としては残っていない。共有するために記録に残す方法を現在検討している。</p> <p>家庭訪問については、今後児童相談所と園長とで再開したいと考えている。</p>			
(13)	スーパービジョン体制	<p>① A41 スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/> スーパーバイザーを配置し、いつでも相談できる体制を確立している。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員に対するスーパービジョンを定例的に行い、職員がひとりで問題を抱え込まないように、スーパーバイザーなどを通じて、組織としての働きかけをしている。</p> <p><input type="checkbox"/> スーパーバイザー以外にも職責相互が評価し、助言し合うことを通じて、職員一人ひとりが支援技術を向上させ、施設全体の支援の質を向上させるような取組をしている。</p> <p><input type="checkbox"/> スーパーバイザーは、職員からの信頼が得られるよう、研修に参加するなど質の向上に努めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 国が定める基幹的職員を設置している。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
【コメント】			
<p>学園内にスーパーバイザーを配置し、2ヶ月に1回の頻度で会議を開催している。以前勤めていた心理資格を持つ職員も定期的に訪問しアドバイス出来る体制が確立している。</p> <p>学園では施設内外の研修を多く開催し、参加することで質の向上に取り組んでいる。また、国が定める基幹職員を3名配置している。</p>			